

# 浦添、具志川商破りV

## KBC杯 女子はコザが名護下す 高校ハンド

ハンドボールの第4回KBC学園杯争奪第38回県高校春季選手権大会は16日、八重瀬町東風平体育館で決

勝を行い、男子は浦添が33-10で名護を下し、女子はコザが28-10で名護を下して優勝を果たした。全

国選抜出場を控えた男子の興南、コザと女子の浦添、那覇西は、今大会を欠場した。

【男子】

浦添 33-10 具志川商

【女子】

コザ 28-10 名護

浦添 17-26 具志川商

## 光る個人技 1年生活躍 浦添

速攻からのループシュートや、キーパーの足元を抜く下手投げのシュートなど多彩なプレーを見せた浦

添。高い個人技で前半からリードを奪い、追い上げる具志川商を振り切った。7点差で折り返したが、後半は退場者が相次ぎ、一時は2人少ない苦しい場面もあった。相手に連続5得点を許し、2点差まで詰め

寄られた。だが、退場者が出る場面も想定して練習を重ねてきたという。落ちていてボール回しからチャンスを作り、渡しかけた流れを再び引き寄せた。「練習通りだ

つた」と高良大輔監督。1年生ながらチームを引っ張ったのは比嘉信吾と宮國義志。突破力のある比嘉がチーム最多10得点、司令塔の宮國も9点と2人で全体の約6割を稼いだ。「1



## 速攻で快勝も反省点 コザ

対1で負けずに前に出て攻めた」と比嘉。宮國は昨年9月の県大会準々決勝で具志川商に敗れたことに触れ「リベンジしたかった」と話した。守備では2年生の友利勇人、長嶺圭吾らが相手の得点を徹底マーク。「苦しい展開にも声を出して乗り切ることができた」と口をそろえた。(宮里努)

強豪の興南、コザも夏の大会には出場する。「先輩と一緒に悔いの残らない大会にしたい」と宮國。真価が問われる次の舞台を見据える。

○女子のコザは得意の速攻とポストを生かしたプレーで得点を重ね、名護に大差をつけて快勝した。ポストで先発した眞貴和子は速攻でも得点源となった。前半だけで8点、後半は途中からポジジョンを変えて2点を奪い、チームをけん引した。「自分たちは速攻のチーム。相手がシュートを打った後に、一番早く前に出てボールをもらえるよう意識した」と振り返る。だが、ミスから失点した眞は「夏も優勝したい」と目標を掲げた。

安全においてミスがあった。状況判断ができていなかった」と手厳しく指摘。45度でチームを引っ張った神里梨乃は「インターハイまでには課題を修正していきたい」ときっぱり。眞は「夏も優勝したい」と目標を掲げた。

女子決勝 コザが名護 前半、シュートを放つコザの眞貴和子